

製品名: SRPK1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18282**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	95kDa

抗原情報

遺伝子名	SRPK1
別名	SRPK1; SRSF protein kinase 1; SFRS protein kinase 1; Serine/arginine-rich protein-specific kinase 1; SR-protein-specific kinase 1
遺伝子 ID	6732.0
SwissProt ID	Q96SB4
免疫原	抗血清はヒト SRPK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 521-570

背景

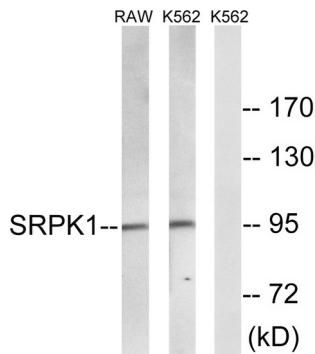
この遺伝子は、スプライシング因子の SR (セリン / アルギニンリッチドメイン) ファミリーに特異的なセリン / アルギニンプロテイン

ンキナーゼをコードしています。このタンパク質は核と細胞質に局在します。スプライシング因子の細胞内局在を制御することで、恒常的スプライシングと選択的スプライシングの両方の制御に関与していると考えられています。この遺伝子の選択的スプライシングは、複数の転写産物バリエーションを引き起こします。この遺伝子については、選択的スプライシングを受けた転写産物の変異体も報告されているが、その全長は明らかにされていない。[RefSeq 提供、2010年7月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質、補因子: マグネシウム、酵素調節: Ser-51 および Ser-555 のリン酸化によって活性化される、機能: スプライシングの調節ネットワークにおいて中心的な役割を果たし、間期細胞におけるスプライシング因子の核内分布と有糸分裂中の核スペckルの再編成を制御する。中期には SFRS1 や SFRS2 などの RS ドメイン含有タンパク質のセリン残基を過剰リン酸化するが、間期にはそのレベルは低下する。SFRS1 に結合して安定した複合体を形成し、RS ドメインを連続的にリン酸化プレゲノム RNA がウイルスカプシドに封入されるために必要な、HBV コアタンパク質のリン酸化を媒介すると考えられています。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット: 7つの構成要素からなる複合体であるトポソームに存在し、染色体分離の際に絡み合った環状クロマチン DNA を分離します。アイソフォーム 1 の延長された N 末端ドメインは、核骨格関連タンパク質 SAFB に結合することから、このアイソフォームは核マトリックス近傍のスプライシング因子をリン酸化する可能性があります。組織特異性: アイソフォーム 2 は主に精巣で発現しますが、心臓、卵巣、小腸、肝臓、腎臓、膵臓、骨格筋にも低レベルで存在します。アイソフォーム 1 は精巣にのみ存在し、アイソフォーム 2 よりも低いレベルで存在します。

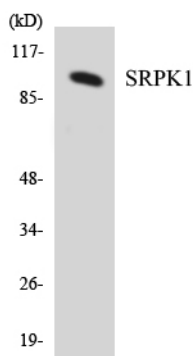
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達、DNA/RNA、RNA プロセッシング、スプライシング

画像データ



SRPK1 抗体を用いた K562 細胞および RAW264.7 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



SRPK1 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解物のウェスタンブロット分析。

